

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和三年五月度 入賞句一覧 投句数 五百七十三句



特選

大堀 武直 選

春はあけぼの今日の私を始めけり

大垣市

柴田 えり子

「この世は一つの舞台。そして人はすべて役者にすぎない」と言う箴言がある。脚本・演出・主演を我々は無意識に熟している。枕草子の冒頭を季語として使い、春の朝の心地好い目覚めを表す。頭の中で今日の段取りを巡らす。積極的な一日の始まりである。作者に倣い対句を詠んだ。蚯蚓鳴く今日の私を仕舞けり

先生の訪問を待つさくら餅

大垣市

田口 貞善

四月の新学期後半になると、家庭訪問が始まる。先生も親も少なからず緊張するものだ。児童は案外落ち着いているようだ。持て成しに何か茶菓子を用意して先生を待っている。しかし、どの家も思いは同じで、三杯目のコーヒ、三個目のさくら餅になつてしまふと先生から聞いたことがある。そう聞くと少し笑えてくる。

傘雨忌や路地の戸口の立話

大垣市

山田 賀子

傘雨忌は劇作家・小説家・俳人の久保田万太郎の忌日。一九六三年五月六日。下町情緒と人情の機微を描いた作品が多い。路地の戸口の前に二、三人集まつて立話をしている。おそらく人の噂話であろう。万太郎作品の一シーンのようだ。中七下五のリズムが安定している。

秀逸

黑板に惜別の詩や花の雨

大垣市

香田 末代

菓子箱にグリコのおまけ昭和の日

大垣市

早筈 千恵子

ふらここを漕ぐ落日の中へ漕ぐ

岐阜市

堀江 美州

夏近し水やはらかに龍吐水

大垣市

新町 恵子

初夏の光りとなりて鳶の輪

大垣市

坪井 克枝

灯ともさぬ部屋にすつくと武者人形

安八郡輪之内町

野村 照子

サイフォンの一滴ごとに夏近く

東京都狛江市

椎野 一恵

風光る園児の放つ千の稚魚

大垣市

傍島 豊子

霾るや還らぬ少年義勇兵

安八郡神戸町

高橋 泰

種袋振れば未来の音かすか

神奈川県相模原市

中村 光枝

入選

豆飯は旨しと七十五日かな

福井県敦賀市

山田 美于代

風にのる子等のハモニ力沈丁花

養老郡養老町

佐藤 咲楽

春寒し川舟止める縄硬し

大垣市

平野 きぬよ

腕白も背筋伸ばして卒業す

大垣市

北村 陽子

山裾は帯引くやうに花並木

大垣市

佐竹 余史美

うららかや大の字となるストレッチ

大垣市

山田 千歌子

水郷の春風に乗る鳶の笛

大垣市

高田 雅章

花の雨逢ひたき人に逢えぬまま

大垣市

松岡 千代

春陰や銀の把つ手の桐箆筒

東京都新宿区

花澤 ちいこ

柿若葉すけて明日の見えるよな

大垣市

松岡 みつ

指先で回す地球儀目借時

大垣市

小林 研

千年の古井戸囲む今年竹

大垣市

新町 恵子

青葉風歩いて増やす骨密度

埼玉県川口市

吉永 寿美子

五月雨や医療かつらへドライヤー

大垣市

安藤 美紀

粽解くからむ赤子の小さき指

大垣市

高木 歌佐

塗りたての遊具の赤や春の風

神奈川県川崎市

佐藤 廣枝

駅弁の紐ほどくとき夏来たる

大阪府東大阪市

森 佳月

ジーパンとジャンパーなれど花衣

福岡県福岡市

大津 英世

たどたどし二点鎖線の初音かな

兵庫県豊岡市

辻井 一路

チョコレートひとかけ含み耕せり

不破郡垂井町

北村 廣美

選者吟

オムライスの上にちよこんと鯉幟

武直



一般の部